

# 臨時 まちセミ・IZUMI 実行委員会 2021 議事録

日 時 2021年2月23日(土) 10時00分～11時30分

場 所 ZOOM

出席者 堀田、佐近、宝閣、森井、村田、芦田、岡崎、山本、菅野、新田

議題：クラウドファンディングについて

## ① 前回議事録のクラウドファンディングについての意見をもとに

- ・マイナスの意見（芯が固まっていない、100%理解できていないなど）に対しては、クラウドファンディングに取り組むことによってできると思うので、取り組みたい。
- ・これだったら分かっていたらいいかな、という所まで詰めていけばいいと思う。
- ・いいことだと思うけど、楽しさが伝わってこない。進める方向でやることはいいことだと思う。絶対にやらないといけないということではない。スタートの時期を決めるのはむずかしい。
- ・コロナ禍で先が見えない。まちセミのことを上手に伝えることが難しい。自分自身が力になれるのか不安。1回やってみるのはいいんじゃないか。
- ・新しいことに挑戦したい。やろうとする意思がないといけない。まちセミのことを伝えようということにならないといけない。実行委員が一丸とならないといけない。新しい学び。温度差をなくして、同じスタートラインに立たないといけない。
- ・全貌が分かってから、やれるもんならやりたい。
- ・現実を踏まえないといけない。空中分解する。やるんだったら、きっちりやる。ネットでの拡散が重要。支援者の目線でやらないといけない。
- ・必須としてやるとしんどい。
- ・来年でいい。今は、今年の内容を固めるとき。
- ・まちセミ「学校ごっこ」の楽しさは参加（対面）型に当てはまるので、リモートにも当てはまるのか？ 楽しさが具体的に出ていけばいい。尼崎での体験を加えた方がいい。自分が楽しいという雰囲気を作らないといけない。コロナ禍でいろいろ制限がある。リモートでも楽しさを伝えないといけない。
- ・今は、分からないので、意見を聞かせてもらって、考えたい。

## ② 何のためにするのか？

- ・お金のためだったら別の方法を考えた方がいい。
- ・共感を得られるようなイベントにしないとけない。
- ・いろんな世代を対象にするのであれば、実行委員会もいろんな世代を入れないとけない。
- ・付加価値的なものを加えないといけない。
- ・リターン品の缶バッチなど、買って帰ってもらう物なので、返礼品としてふさわしいかどうか？

### ③ 取り組むためには

- ・事務的な作業・画面を作る作業・お礼のメールを返す作業・リターン品を作る作業などができるメンバーが必要。
- ・PRのため、楽しさを共有するための旗印にしてほしい。
- ・スキルのある人（画面を作る人・若い人・動画を作れる人など）が必要。
- ・支援者・利用者の視線で取り組むこと。
- ・実行委員に温度差があることが世の中に伝わって、リアクションが帰って来るのでは。
- ・今集まっている人でできるのか不安。
- ・できるというステージに到達すれば、できるのでは？
- ・今一番の課題は、誰がやるの？ 自分たちができるの？ ということだと思う。
- ・できる人とは、経験者・ページ作りができる人・プレゼン資料が作れる人・ネットに精通している人など。
- ・実行委員の共通理解が必要。
- ・会として取り組むために煮詰める必要がある。  
お金集めのため、内部の組織固め、ファンを増やす。

### ④ 原点に戻って

- ・先生しよかな、楽しかったな。皆がやってみて楽しかったなということがあって、集まって来るのではないか。大きくすることより、楽しかったということが大切なのでは。
- ・これまでのまちセミがわたしたちの目指していたものか、クラウドファンディングの資料を作りながら思った。これもクラウドファンディングに取り組むということがあって、はじめて考えた。この意味でも、クラウドファンディングが目的ではなく、手段として取り組むことで活動も見直せるのではないか。
- ・公的な所に発信していくことが大事。自分たちに責任感が生まれる。

### 【結論】

クラウドファンディングは目的ではなく、手段として取り組むことで、まちセミを見直したり、実行委員の温度差を埋めるための努力を積み重ね、その結果として、クラウドファンディングに取り組めるのであれば取り組む。

さらに、できるところまで詰めて、結論を出す時期が来たときに、最終決定をする。

●誰かが新しいメンバーを連れて来てくれるのではなく、実行委員ひとりひとりがメンバーを捜して、連れてきてほしい。